

特 許 庁

実用新案出願公告

104 A 20

実用新案公報

昭 40-6148

公告 昭 40. 2. 28

(金 2 頁)

反射鏡

実 願 第 36-85868
 出 願 日 昭 36. 7. 14
 考 案 者 植波昌成
 出 願 人 植波昌成
 秋田市明田島場前 10
 同 鈴木文四郎
 秋田市手形山崎 22 の 8
 代 理 人 弁理士 澤澤誠治 外 1 名

図面の簡単な説明

第 1 図は本案品の正面図、第 2 図は同上斜视图
 第 3 図は A-A 線縦断面図、第 4 図は B-B 線横
 断面図である。

考案の詳細な説明

本考案は視認範囲を広めて危険発生を防止する
 ことを目的とした反射鏡に係るもので、鏡体 1 の
 上半部 2 を横断面半円弧状に形成し、下半部 3 を
 鏡体 1 の背面 4 に向つて、下方向ならびに横方向
 にそれぞれ弧状に彎曲形成したことを特徴とする
 ものである。

しかして鏡体 1 の中央には鏡体 1 を上下に二分
 する分岐線 5 を、また上半部 2 の中央および下半
 部 3 の左右側縁にはおのおの縦方向の分岐線 6, 7
 8 を夜光塗料等で描出し、障害物、走行車等の上
 下および左右の位置を知り、夜間においても認識
 できる様にする。また鏡体 1 の一端に支柱 9 を廻
 動自在に取付ける。本考案の構成を説明すると、
 第 2 図に示すように鏡体 1 の上半部 2 を、横断面
 が半円弧状となるように薄板型に形成すると共に

下半部 3 の正面中央部は鏡体 1 の下端に向つて下
 方向に彎曲形成し、更に下半部 3 の左右側縁部は
 鏡体 1 の背面に向つて左右方向に彎曲形成する。

本考案は上述のように構成したので、本案品を
 例えば自動車等の車体の前方に取付けて使用すれば
 運転者は鏡体 1 の上半部 2 の中央部の鏡面によつ
 て、従来のバックミラーと同様車体の後方を監視
 できるばかりでなく、上半部 2 の左右側縁部の円弧
 状彎曲鏡面が、車体の左右横方向および斜後方向
 等運転者の視界外の障害物、走行車等を映し、鏡
 体 1 を車体の最先端に取付けて使用すれば特に、
 狭い十字路を運転する際視界が狭小で衝突等の危
 険性の大きい場合は、鏡体 1 が運転者より前方に
 位置しているので、交叉路の左右の歩行者や走行
 車を映し、それ等のものが運転者自身の視界内に
 入る以前に運転者が認識し、事故を未然に防止出
 来、また鏡体 1 の下半部 3 の中央部および左右側
 縁部の彎曲鏡面によつて、運転者は車体の直前直下
 および左右下側方を監視出来、特に大型自動車に
 おいて車体の直前の横断者特に幼児、または障害
 物等を知ることが出来る等、従来のバックミラー
 に比べて視認範囲を著しく拡大し、安全運転を期
 し得られた、本案品を小型船舶、あるいは工場
 作業場、土木工事場等で使用する走行車等に取付
 け使用すれば、航行あるいは作業の安全を期し得
 られる等の実用上の効果を有するものである。

実用新案登録請求の範囲

本文に詳記するように鏡体 1 の上半部 2 を横断
 面半円弧状に形成し、下半部 3 を鏡体 1 の背面 4
 に向つて、下方向ならびに横方向にそれぞれ弧状
 に彎曲形成したことを特徴とする反射鏡。

(2)

実公 昭 40-6148

